

五十回忌の追福も實光陰は
矢車の紋所其縁による段書は

加賀の梅田に寄御馴染の☆の替紋
越中の櫻井に寄御存知の✿の定紋
上野の松枝に寄御最負の☁の詔紋

將其時の着到にちぎれ具足の武者ぶりは思ひの外な

焚火の返報情にこもる三木の其名芳し經世が忠臣

會よせて稽ゆき雪のち後日鉢木はちのき

本領合
三ヶ庄

扱其後の雪降に細布衣のやさ姿は以ての外な

子ゆえの執着筐にのこす三人の其名懐し白妙が真心